

それゆけ！アンパンマン

少なくとも、決して弱い者いじめをしない。

努力して、個性輝く大人になって、

みんなと喜び会える世の中の、一役を担いたい！

今までは、なんてことなく聞いてきたアンパンマンのマーチですが、何故かこの歳になって、心に響く歌の一つになりました。スーパーマンにはなれない

けど、アンパンマンみたいな人間にはなれそうな気がします。一人一人は弱くても、みんなで仲良く力を合わせたら、夢のある素敵なことが達成できると思います。「みんな違ってみんないい！」

「ナンバーワンにならなくてもいい、もともと特別なオンリーワン！」(皆がヒーローになれる)

アンパンマンは、世界一弱いヒーローだ！(やなせたかし)



アンパンマンのマーチ 作詞・やなせたかし

そうだ うれしいんだ 生きる喜び
 たとえ 胸の傷が痛んでも
 何のために生まれて 何をして生きていくのか
 答えられないなんて そんなのは嫌だ！
 今を生きることで 熱い心 燃える
 だから 君は行くんだ 微笑んで
 そうだ うれしいんだ 生きる喜び
 たとえ 胸の傷が痛んでも
 ああ アンパンマン 優しい君は
 行け！みんなの夢 守るため
 何が君の幸せ 何をして喜ぶ
 わからないまま終わる そんなのは嫌だ！
 忘れないで夢を こぼさないで涙を
 だから君は飛ぶんだ どこまでも
 そうだ恐れないで みんなのために
 愛と勇気だけが 友達さ
 ああ アンパンマン 優しい君は
 行け！みんなの夢を守るため
 時は早く過ぎる 光る星は消える
 だから君は行くんだ 微笑んで
 そうだ うれしいんだ 生きる喜び
 たとえ どんな敵が相手でも
 ああ アンパンマン 優しい君は
 行け！みんなの夢 守るため



なんのために
 生まれて
 なにをして
 生きるのか
 こたえられない
 なんて
 そんなのは
 いやだ

やなせ たかし 1919年〈T8年〉2月6日
 生まれ、高知県出身 - 2013年〈H25年〉
 10月13日逝去、享年94歳。
 漫画家、絵本作家、詩人、元陸軍軍人。

ぼくらはみんな 生きている
生きているから 歌うんだ
ぼくらはみんな 生きている
生きているから かなしいんだ
手のひらを太陽に すかしてみれば
まっかに流れる ぼくの血潮
ミスだって オケラだって
アメンボだって
みんな みんな生きているんだ
ともだちなんだ

ぼくらはみんな 生きている
生きているから 笑うんだ
ぼくらはみんな 生きている
生きているから うれしいんだ
手のひらを太陽に すかしてみれば
まっかに流れる ぼくの血潮
トンボだって カエルだって
ミツバチだって
みんな みんな生きているんだ
ともだちなんだ

ぼくらはみんな 生きている
生きているから おどるんだ
ぼくらはみんな 生きている
生きているから 愛するんだ
手のひらを太陽に すかしてみれば
まっかに流れる ぼくの血潮
ススメだって イナゴだって
カゲロウだって
みんな みんな生きているんだ
ともだちなんだ



アンパンマン作者の「やなせたかし」先生が、後世に残された名言

- 人間が一番うれしいことはなんだろう？ 長い間、ぼくは考えてきた。
そして結局、人が一番うれしいのは、人をよろこばせることだということがわかりました。
実に単純なことです。ひとはひとをよろこばせることが一番うれしい。人生は「よろこばせごっこ」
- 「継続は力なり」というが、あきらめないでひとつのことを思いを込めてやり続けていると、ちゃんと席が空いて、出番がやってくるものなのだ。
- 「悲喜こもごも」という言葉がありますが、まずは悲しみが先にやってくる。
人間が生きていることを感じるのは、悲しいときのほうが多いんですね。
- 「生きていることが大切なんです。今日まで生きてこられたなら、少しくらいつらくても明日もまた生きられる。そうやっているうちに次が開けてくるのです」
- 若い人には、好きなことができる職業についてほしいと言いたい。
好きなことなら、少々労働条件が悪くても、つらいとは思わない。絵を描くことが好きなら、画家や漫画家になるだけじゃなく、美術館で働くとか、絵本をつくるといった仕事もある。スポーツが好きだけどプロでやれるほどではないなら、スポーツグッズ関係の会社で仕事をするとか、道はいろいろある。そんな仕事を見つけてほしい。絶えず探し求め、探し続けていなければ、チャンスにはめぐり合えない。失敗を恐れず、挑戦してみることだ。
- それぞれが自分にできることをやる。そうしたことが積み積もって、社会をよい方向に動かしていく。
- 困っている人を助けるといっても、一人ひとりの力はきわめて小さい。自分自身だって非力で、大したことはできないこともわかっている。
でも、一人で世の中全体を救うのは無理でも、身のまわりの五～六人ぐらいになれば、手をさし伸べることができるだろう。この五～六人がまた、身のまわりの五～六人に手をさし伸べる気持ちになってくれたら、助けられる人は、二十人、三十人と広がっていく。こうして、助け合うことが徐々に広がっていけば、やがては世の中全体が救われていくのではないだろうか。
- アンパンマン開始当時、『自分の顔を食べさせるなんて残酷』と評論家や視聴していた親御さんに酷評され、その設定はやめた方がいいのではないかと注文を受けたんです。
それに対し先生は、正義とは必ず『自己犠牲』がともなうものだとおっしゃいました。アンパンマンが飢えてる人に自分の顔を食べさせるのには、そういう意味がこめられているのです。だから決して譲らなかつた。逆転しない正義とは献身と愛だ。やらなければならぬ時には、勇気を出して戦う。それが正義だ。